

2009年5月14日  
日本電産株式会社

～HDD用スピンドルモータの最先端開発拠点～  
長野技術開発センター新社屋がオープンしました

日本電産株式会社（代表取締役社長：永守重信）は5月14日、本年3月長野県駒ヶ根市内に完成しました長野技術開発センターの新社屋にて、開所式を行いましたのでお知らせいたします。

## 1、長野技術開発センターについて

長野技術開発センターは、1989年に前身の長野日本電産(株)を設立して以来、当社の主力製品である HDD(ハードディスクドライブ)用スピンドルモータの開発拠点として、長野県上伊那郡飯島町にて操業し、地域に根ざしてまいりました。

そしてこの度、HDDの需要拡大と技術開発の高度化にともない、新時代に相応しい開発環境を整えるため、風光明媚な駒ヶ根の地に当社の技術開発力を十二分に活かせる機能と設備を有した新社屋を建設いたしました。この新社屋には、クリーンルームや開発実験室など、最先端の開発環境をはじめ、充実したビジネス環境、福利厚生施設も整えております。尚、従来の長野技術開発センターは、信頼性評価試験所として「長野技術開発センター 飯島分室」と名称を変更しております。

## 2、新社屋の主な特徴

- ①建物の広さは従来センターの2倍で、6室のクリーンルームを備え、HDD用スピンドルモータの研究・開発・分析・試作といった全てのニーズに対応しています。
- ②部門間コミュニケーションの更なる促進を図るべく、各部門のオフィスを1フロアに集約しております。
- ③新社屋は林地を造成して建設していますが、敷地全体の約25%を森林として残し、緑豊かな環境としています。
- ④トイレの洗浄水、植栽散水、研究・開発用水及び夏季の空調用に井戸水を使用し、上水道の使用量を削減しております。研究・開発用水については、汲み上げた水を不純物のない「純水」に加工しており、使用した水は汲み上げた時よりさらに美しくして川に戻しています。
- ⑤エントランスやショールーム、外部サインにLED照明を採用、電力使用量を削減しています。
- ⑥国内で最も日本電産グループ社員の多い地域である長野県ならではの、「地域共生型ショールーム」を設置。モータ実機や稼働展示物、ゲームなどで「モータを学べる場所」としてまいります。

### 3、新社屋の概要

- ①所在地 長野県駒ヶ根市赤穂 20-51
- ②敷地面積 32,890 m<sup>2</sup>
- ③延床面積 16,852 m<sup>2</sup>
- ④階数 地上 2 階、地下 1 階
- ⑤投資額 約 70 億円
- ⑥人員体制 現在の約 300 名に加え、技術者、研究者を中心に新規雇用を毎年 50～70 名程度行い、最終的に 600～700 名程度まで増員予定



長野技術開発センター



ショールーム



クリーンルーム

#### 報道機関お問合せ先

日本電産株式会社 広報宣伝部長 田村 徳雄  
〒601-8205 京都市南区久世殿城町 338 TEL 075-935-6150 (ダイヤルイン)